

令和8年度 瀬戸まちの課題解決応援補助金 交付決定事業一覧

「テーマ型協働活動」部門

団体名／「事業名」／【社会課題テーマ】(所管課)		事業内容の概要	交付額(円)
6	本・ひとしづく たねまきの会	【課題・目的】 若者の投票率が低迷しているが、政治が日常生活に与える影響や選挙制度を若者が学び・対話できる場が不足している。暮らし(働き方・福祉・教育・地域交通等)と政治をつなぐ入口をつくり、若者が主体的に選挙に関わるきっかけを提供する。	240,000
	せと選挙ラボ:ポスター×本棚×トーク×シネマでつくる若者の政治参加	【事業内容】 選挙に関する本棚展示・ポスター展の実施。若者の政治参加をテーマにしたトークイベントの実施。選挙に関するシネマ対話の実施。	
	【若者の投票率向上のための選挙啓発活動】(行政課)	【目標】 ・本棚・ポスター展:閲覧200人以上/シール投票・カード記入80件以上 ・トークイベント:参加30-50人/満足度80% ・上映+対話:参加20-40人/対話参加率70%以上 ・政治や選挙を「暮らしとつながるもの」として捉える参加者が増える ・投票の基本(期日前投票等)や参加手段(傍聴・パブコメ等)を知り、次の行動につながる	
7	Zero・Waste SETO(ゼロ・ ウェイスト セト)	【課題・目的】 瀬戸市ではごみ減量が進む一方で、1人1日あたりのごみ排出量の減少が鈍化しており、特に家庭から排出される可燃ゴミのうち約30%を食品ロスで占めているため各家庭生活における行動変容が必要であるが、ごみ減量や分別が「難しい」「面倒」と感じられやすく、知識啓発だけでは行動に結びつきにくい。目的は、体験型の学びを通じて市民がごみ減量を楽しく実践し、家庭での食品ロス削減やごみ分別の定着を目指す。	240,000
	やってみようでつながる！みんなでゼロウェイストプロジェクト	【事業内容】 キエーロ(土の中に生ゴミを入れて分解する生ゴミ処理機)体験ワークショップの開催。ごみゼロゲーム体験ワークショップの開催。ごみ資源物に関する広報・啓発。	
	【誰もがこれまで以上にごみの減量・分別に取り組める持続可能なまちづくり】(環境課)	【目標】 ・市民一人ひとりがごみ減量を「自分ごと」として捉える意識の醸成を図る。 ・瀬戸市の一人当たりごみ量の減量 ・瀬戸市のごみ組成調査における食べ残し等に該当する数値の減少 ・ワークショップ参加者:延べ50名程度 ・参加者アンケートにおいて「家庭で実践してみたい」70%以上	
8	せと空き家まちめぐり実行委員会	【課題・目的】 現在、市内の空家に魅力を感じている移住・開業希望者は多数いるが、空き家所有者は「困らない」と考え、物件が供給不足となっている。本事業は、所有者の意識を「個人の所有物」から「街の資産」へ転換し、空き家を市場に流通させるきっかけを作ることを目的とする。 【事業内容】 「空き家の手引き&活用事例」の制作(所有者が抱く「貸すことへの不安」を解消する情報や先行事例をまとめて視覚的に「貸すメリット」を伝える)。自治会や商店街などのコミュニティに出向き、冊子を配布しミニセミナーを実施して、インターネットでは届かない層へ直接アプローチする。 【目標】 ・空き家活用の「土壌づくり」と意識の変容 本事業は、長年放置されてきた所有者の「心のハードル」を下げるための第一歩(種まき)と位置づけます。「貸すという選択肢がある」と気づいてもらうこと、そして「相談できる相手がいる」と知ってもらうことで、将来的な市場流通に向けた所有者の意識変容を図ります。 ・長期的に機能する「啓発ツール」の資産化 作成する冊子は一過性のものでなく、今後行政等が日常業務の中で空き家相談を受けた際に、所有者に手渡せる「常設のツール」として機能・定着させます。これにより、事業終了後も継続的な啓発効果を生み出します ・「制度」と「想い」の橋渡し 制度や法律の枠組みだけでなく、「愛着ある家をどう残すか」という所有者の心情(ソフト面)に寄り添えるのが市民活動団体の強みです。地域コミュニティ(自治会等)の中に深く入り込み、顔の見える関係性を築くことで、行政だけでは拾い上げきれない潜在的な悩みやニーズを顕在化させます。	241,200
	空き家価値の再定義と空き家所有者の気づきの醸成事業		
	【市内の魅力ある空き家発掘プロジェクト】(都市計画課)		
交付合計額			721,200